



## さくらサイエンス710

### 実施報告

7月10日、「さくらサイエンス710」を実施し、中国からの高校生生徒24人と本校の有志生徒が交流を深めました。その際の様子について記します



#### 【午前 対面式・授業参観】

バディとして集まった一高生と、中国の生徒との対面式が5階多目的教室にて行われました。対面までは緊張の面持ちが残っていたものの、すぐに打ち解け合い、連絡先を交換し合うといった姿も見受けられました。

- 学校や教室の雰囲気伝えることができた。
- 物理英語の授業では、中国の学生たちの方が授業を理解できていた。
- 授業を熱心に聞いており、教科書を見せると興味を持ってくれた。特に、漢文は話が盛り上がった。

(生徒感想・抜粋)



#### 【お昼 交流会】

お昼休憩の時間を使って行われたのは、一高の有志生徒による学校紹介と、簡単なミニゲームです。学校紹介は、学術研究委員を中心にプレゼン形式で行われました。また、「ワードウルフ」という一高側が企画したカードを使っての心理ミニゲームは、大いに盛り上がりました。

- 英語でスピーチを考え、一高の紹介をした。スピーチ中も反応があったので、伝わってはいったと思う。
- 少しゲームの内容が難しかったが、バディや学術研究委員が英語で教えることができたので良かった。
- 自分のバディだけでなく、他の方とも話すことができた。

## [午後 一高科学の甲子園]

一高科学の甲子園は、課せられた問題を科学的思考で解決するというワークショップです(下を参照)

特に難しかったのは、コミュニケーションをすべて英語でとる必要があるということでした。しかし、ジェスチャーなどを用いながら、協力して作業を行っていました。

○積極的にコミュニケーションを図り、チームへの貢献に努めることができた。

○英語でうまく説明できないところも多々あったが、楽しく作品を作ることができた。

○アイデア共有に苦戦したが、臨機応変な対応と中国人高校生のアイデアでゴールでき、達成感を味わった。



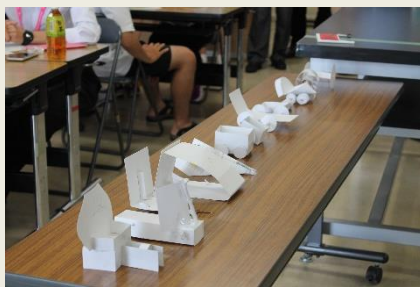
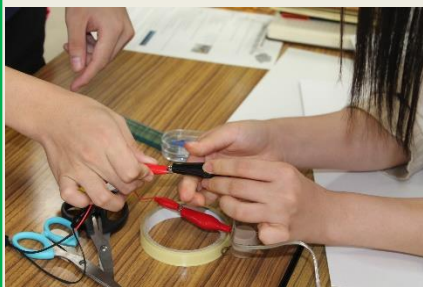
## 一高科学の甲子園

~Move a Weight Using Wind Power~

〈課題: おもり(20g)を載せて動く乗り物を作る〉

- ・乗り物を動かす際はプロペラの風力のみで行い、手を触れてはいけない。
- ・材料として使っているのは、用意された紙のみ。
- ・一定のコースの、スタートからゴールまでのタイムで順位を決める。

〈制作風景〉



優勝

↑ 12の班それぞれ、個性豊かな作品を創作していました。

## [参加してみたの感想]

○実際に中国の生徒と接してみて、日本との文化や人柄、学校制度などの違いなど多くの発見があった。

○英語がうまかった。ただ、自身のつたない英語でも伝わって良かった。

○バディが、日本の大学に進学したいと話していた。尊敬しかない。会話すら難しいのに、第二言語、第三言語まで勉強するとは考えもしなかった。

## [編集後記]

私自身もバディとして参加したが、日本の英語教育にはまだまだ海外から見習うべきところがたくさんあると痛感させられた。

(文責 大塚)